

令和 6 年度第 2 回二宮町国民健康保険運営協議会次第

日 時 令和 6 年 11 月 26 日 (火)

13 時 00 分～

場 所 二宮町役場 第 1 会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議 事

(1) 令和 6 年度二宮町国民健康保険特別会計補正予算第 3 号(案)について

(2) 令和 7 年度保険税率・納付金(仮算定)の状況について

4. その他

5. 閉 会

資 料 1

令和6年度二宮町国民健康保険特別会計補正予算第3号（案）の概要

1. 補正予算額

歳入歳出ともに総額としては126,733千円の増額補正になります

（単位：千円）

補正前の額	補正額	計
2,826,059	126,733	2,952,792

2. 補正予算（案）のポイント

（単位：千円）

○歳入	・ 県支出金	126,677
	保険給付費の増と同額を増	
	・ 繰入金	56
	職員給与費等繰入金	
	総務費の増と同額を増	
●歳出	・ 総務費	56
	支給実績等に伴う職員給与・手当等の減	△ 505
	保険証廃止に伴う帳票等費用の増	561
	・ 保険給付費	126,677
	療養給付費	69,433
	療養費	4,955
	高額療養費	52,289
	→支出が当初見込みより増えたことによる増	
	・ 保健事業費	336
	会計年度任用職員の給与改定による増	
	・ 諸支出金	1
	令和5年度国庫支出金の精算に伴う増	
	・ 予備費	△ 337
	保健事業費・諸支出金分の調整	

令和7年度保険税率・納付金(仮算定)の状況について

1. 国保事業費納付金の仕組み

神奈川県全体の保険給付費と国からの交付金の差額(不足分)を事業費納付金として市町村が県に支払います。納付金は、医療費水準や所得水準、被保険者数等に応じて市町村ごとに按分し計算されます。

2. 令和7年度国保事業費納付金の仮算定結果

神奈川県による国保事業費納付金仮算定の結果、二宮町が神奈川県へ納付する令和7年度国保事業費納付金は、7億5,129万8千円となりました。令和6年度から3,337万3千円の減となります。

※1月に確定係数による計算がされるため、金額は変更となる場合があります。

【減額の要因】

国から県への交付金の増加や被保険者数の減少等により県から国への後期支援金分及び介護納付金分の納付が減ったことで県全体としての国保事業費納付金下がったことが要因となっています。

国保事業費納付金

(単位：千円)

区分 \ 算定結果	令和7年度	令和6年度	前年度比
基礎課税分	510,110	539,516	△ 29,406
後期支援金分	185,948	198,580	△ 12,632
介護納付金分	64,764	66,193	△ 1,429
小計	760,822	804,289	△ 43,467
激変緩和分(補填)※	△ 9,524	△ 19,618	10,094
合計(実質負担額)	751,298	784,671	△ 33,373

※激変緩和分：令和6年度から納付金算定に当たり医療費水準が徐々に反映されなくなることから、医療費水準による増加分を補填するもの。特別交付金として県から交付される。

(補填割合 令和6年度：9割 令和7年度：6割 令和8年度：3割)

3. 令和6年度保険税率等

令和6年度に保険税率等を見直し、現在は下記の保険税率等で運営しています。

年度		令和6年度	令和5年度	前年度比
区分				
医療分	所得割額	6.93%	6.25%	0.68%
	均等割額	25,600円	25,600円	-
	平等割額	26,200円	26,200円	-
後期支援金分	所得割額	2.65%	2.10%	0.55%
	均等割額	10,900円	9,400円	1,500円
	平等割額	7,800円	7,800円	-
介護分	所得割額	2.55%	2.00%	0.55%
	均等割額	17,000円	17,000円	-

4.保険税率等算定に向けた令和7年度当初予算見込(令和6年度との比較)

【歳入】

- ①保険税収は、被保険者数の減少に伴い約1,500万円の減
 ②県からの特別交付金は、納付金増加の補填(激変緩和分)割合が下がるため約850万円の減
 ③一般会計繰入金は、被保険者数の減少に伴い保険税軽減分の繰入額が下がることで約870万円の減
 ④基金繰入金は、基金の取り崩しを0にしたことで1,000万円の減
 ⑦合計で歳入は約4,300万円の減が見込まれます。

(単位：千円)

歳入見込	令和7年度(見込)	令和6年度	前年度比
①国民健康保険税	588,992	604,773	△ 15,781
②特別交付金	61,569	70,141	△ 8,572
③一般会計繰入金	138,777	147,472	△ 8,695
④基金繰入金	0	10,000	△ 10,000
⑤繰越金	20,000	20,000	0
⑥諸収入	4,003	4,034	△ 31
⑦合計	813,341	856,420	△ 43,079

※保険税は令和6年度の保険税率等で試算しています。

【歳出】

- ①国保事業費納付金は、約4,300万円の減
 ⑦小計で歳出は約4,500万円の減が見込まれます。
 ※歳入と歳出の差額は⑧予備費で調整しています。

(単位：千円)

歳出見込	令和7年度(見込)	令和6年度	前年度比
①国保事業費納付金	760,822	804,289	△ 43,467
②システム改修費	0	198	△ 198
③保険給付費(出産育児一金、葬祭費等)	8,120	9,118	△ 998
④保健事業費	32,865	31,737	1,128
⑤公債費	50	25	25
⑥諸支出金	4,271	5,758	△ 1,487
⑦小計	806,128	851,125	△ 44,997
⑧予備費	7,213	5,295	1,918
⑨合計	813,341	856,420	△ 43,079

【全体】

全体としては、歳入の減「約4,300万」に対し、歳出の減は「約4,500万」となり、令和6年度予算と比較すると「約200万円」の余剰が生まれる見込みとなっています。

5.令和7年度保険税率について

令和6年度保険税率で試算を行った結果、歳出の減が歳入の減を上回り、基金の取り崩しをすることなく運営できる見込みです。しかし、歳入に前年度繰越金を加味した上での収支であり、単年度収支では赤字になることが見込まれることから令和7年度の保険税率等は変更せず、令和6年度と同じ税率等で運営することを事務局として提案します。